

# カジノに将来託せない

## 苫小牧市民の会 誘致反対講演会



講演する滝口教授  
18日、北海道苫小牧市

刑法が禁じる賭博場を解禁するIR（カジノ）を中核とする統合型リゾート）実施法が強行されて4カ月。北海道苫小牧市の「カジノ（賭博場）誘致に反対する苫小牧市民の会」は18日、講演会と総会を開きました。100人を超える参加者は

「子どもたちの未来に

「カジノはいらない」とアピールしました。滝口直子大谷大学教授が講演。「依存症であることを本人も家族もひた隠しにする傾向が強く、恥ずかしいという理由からきています。依存症は社会全体の問題です」と強調。

「カジノ事業者は、利益のためには予防や抑制に動きません。日本ではパチンコが多く、はまりやすい仕掛けがある」として、ギャンブル依存症は社会や国を挙げて取り組む必要があるとのべました。

日本共産党の佐野弘

美道議が道議会でのカジノ審議を報告。自身の家族のギャンブル依存症の経験を話し、当時のつらさを思い出し涙ぐみ、「道民65%がカジノ誘致に反対しているのに、高橋はるみ知事は誘致に前のめりです」と批判しました。

参加した松橋千春道議候補は「多額の市民の税金を投入し誘致する、人の負け方で成り立つカジノからの収益で依存症対策をするのは本末転倒。市民の命と暮らしを守るはずの自治体が人の不幸で成り立つカジノ誘致を推進するのは市民として許していいのでしょうか」と訴えました。

美道議が道議会でのカジノ審議を報告。自身の家族のギャンブル依存症の経験を話し、当時のつらさを思い出し涙ぐみ、「道民65%がカジノ誘致に反対しているのに、高橋はるみ知事は誘致に前のめりです」と批判しました。

参加した松橋千春道議候補は「多額の市民の税金を投入し誘致する、人の負け方で成り立つカジノからの収益で依存症対策をするのは本末転倒。市民の命と暮らしを守るはずの自治体が人の不幸で成り立つカジノ誘致を推進するのは市民として許していいのでしょうか」と訴えました。